

グローバル・フードバリューチェーン（GFVC）推進官民協議会

食品産業の海外展開におけるコールドチェーンの 課題と解決の方向性

株式会社 野村総合研究所

消費財・サービス産業コンサルティング部
アーバンイノベーションコンサルティング部
NRI Singapore

2026年7月24日



本部会の目的・議論事項 | コールドチェーンに関するこれまでの検討と本部会の目的

本部会では海外展開加速に向けて、これまでのコールドチェーンに関する調査・検討を踏まえつつ、より具体的な解決策の導出・官民の役割整理を行う

これまでのコールドチェーンに関する取組

- コールドチェーンは、農林水産品・食品の輸出や海外展開において重要な機能の一つであり、「マーケット動向」「課題」「解決策」等の調査・検討が実施されてきた
- また、コールドチェーン物流サービスの国際標準化も推進されている

取組例（一部抜粋）

資料名・検討会名	発行・開催主体/年
日本産農林水産物・食品の輸出のための課題検討委員会 開催結果概要	JETRO/2025年
インドへの水産物・水産加工品輸出実態調査	JETRO/2024年
主要輸出国・地域の輸出促進体制調査 （令和2年度 輸出環境整備推進委託事業）	農林水産省/2021年
主要国・地域におけるコールドチェーン調査結果報告	JETRO/2015年
コールドチェーン物流サービス規格（JSA-S1004）に関する普及検討委員会	国土交通省/2020年 ～

近年の変化

- 輸出拡大実行戦略が掲げられると共に、輸出・海外展開が年々拡大する中で、コールドチェーンに係る検討の必要不可欠である
- また、新たな総合物流施策大綱が決定され、戦略的なサプライチェーン構築に向けて、改めて本課題に取り組む必要がある

輸出拡大実行戦略



総合物流施策大綱



本部会における目的・検討事項

- ✓ これまでの調査結果等も踏まえつつ、海外展開の加速に向けてより具体的な解決策や官民の役割を整理することを目的とする
 - ✓ 「①アセット整備の促進（採算性の取れる仕組み作り）」「②物流オペレーションの確立」を主として検討を進めることを想定
- ※詳細については後段にてご説明

第1回では、部会の目的共有、概況・課題紹介、課題・ニーズ抽出のディスカッションを想定。第2回では、課題解決の方向性案や事業者からの事例紹介を実施し、第3回では官民の役割について検討する

新事業創出部会 全3回の想定アジェンダ

	第1回（7月24日（金））	第2回（10月27日（火））	第3回（1月）
目的	- 概況・課題の共有 - 事業者の課題・ニーズの把握	- 課題解決の方向性検討 - 事業者間の連携促進	- 官民の役割 - 事業者間の連携促進 - アクションプランの検討
アジェンダ	- 部会の目的・進め方の共有 - インプットセッション （コールドチェーン概況・課題の共有、国の支援施策や事例の共有） - ディスカッションセッション （コールドチェーンの課題・ニーズの抽出に資するテーマ）	- 課題解決の方向性案の共有 - 事業者からの事例・ソリューション紹介 - ディスカッションセッション （課題解決の方向性案の導出に資するテーマを設定）	- 官民の役割案の共有 - ディスカッションセッション （官民の役割の検討や、事業者のネットワーキング構築に資するテーマを設定） - 今後の課題解決の方向性、アクションプラン
調査・検討事項	テーマ概況・トレンド把握 - 公開情報調査をベースとして、各テーマの主要トレンドを調査 - 海外調査の実施（ミッション派遣等との連携を想定） - 事業者ヒアリング（1-2件）	個別テーマの深堀① - 海外調査（インドネシア・ベトナム等を想定）の実施 - 公開情報調査 - 事業者ヒアリング（1-2件）	個別テーマの深堀② - 公開情報調査 - 事業者へのヒアリング(1-2件) - 第1,2回を通した示唆導出

本日

事後アンケートにてニーズを把握

事後アンケートにてニーズを把握

本日はコールドチェーンに係る課題や今後の確立に向けた方向性案についてご共有。
実際に事業に取り組む皆様方よりご意見を頂き、今後の調査・検討を推進予定

【本日のゴール】

- コールドチェーンの課題や解決方向性について整理できている
- 今年度中の「コールドチェーン整備に向けた方向性導出」「官民の役割整理」に向けて、今後の論点・検討事項が明確化できている

【今回のインプット情報】

- コールドチェーン検討の背景
- 課題と解決方向性（現状仮説）
- インドを題材としたコールドチェーン構築に関する取組共有

【今回の議論事項】

- 課題や解決方向性
- 上記踏まえた本部会での今後の調査・検討事項

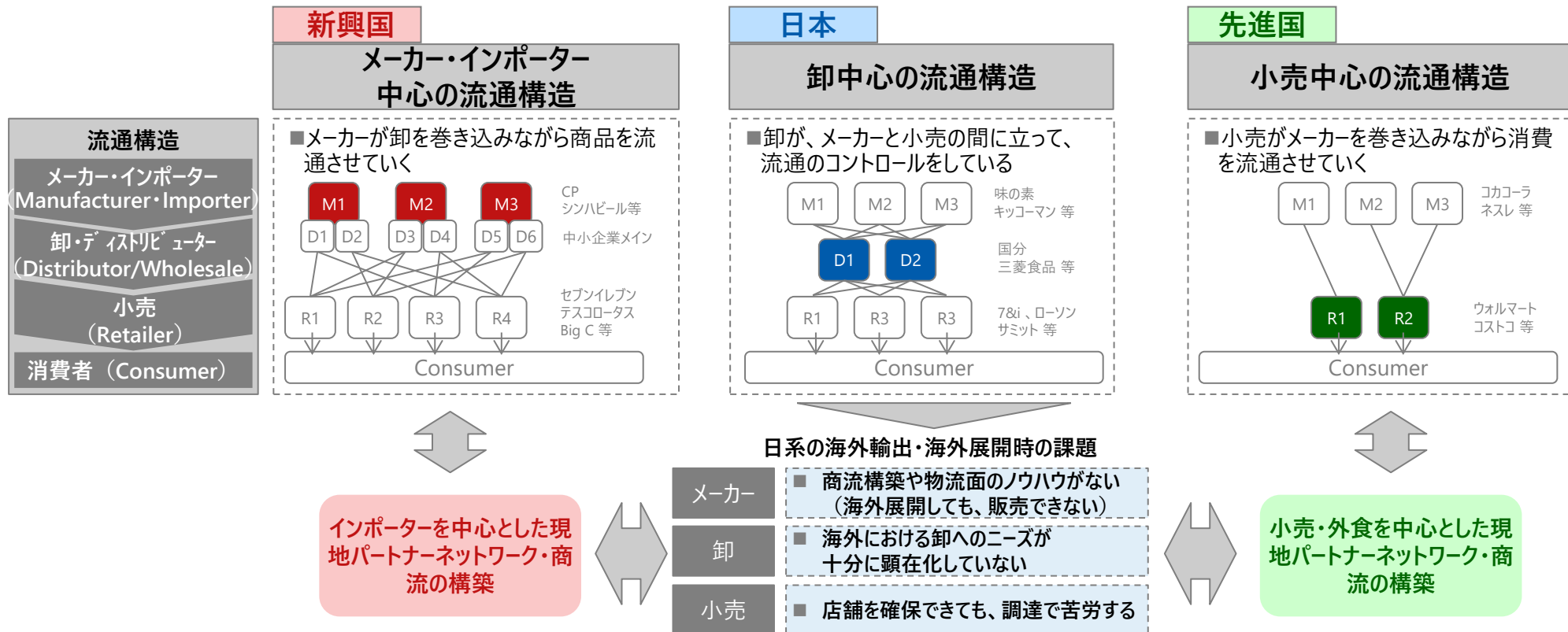
本日のNRI資料構成：

- 新事業創出部会開催の背景
- 本部会の検討スコープ
- コールドチェーンに係る課題・解決の方向性
- ディスカッション事項
- 今後の部会の進め方

日本の食産業全体としての課題は流通構造の違いへの対応/対策。日本企業の多くは、食品卸に良いものを提供すれば売ってくれる/持ってきてくれるという習慣からの脱皮ができず、海外展開につまずく

- 世界の食品流通構造は、大きく“①メーカー（インポーター）主導型”、“②卸主導型”、“③小売主導型”の3つに整理される。日本企業は、海外も日本と同じ流通構造（“②総合卸主導型”）であると勘違いし、現地側と日本側の役割分担の認識などが一致せず、商流の構築まで至らないケースが多い。
- そのため、輸出時には、現地パートナーの声を十分吸い上げ、その意味を咀嚼し、どのような連携をしていくべきかを考えていくことが、海外展開の成功確率を高めるために必要であると想定される。

流通構造の3パターン



海外の食品流通では、「国内向け市場流通」、「国内向け市場外流通」、「国内向け輸入」、「国外向け輸出」の4ルートが存在する

食品流通の4ルート（ASEANにおける例）

1 国内向け市場流通

【パートナーイメージ】

- a. 集荷業者・仲買人
- b. 市場・港運営事業者
- c. 卸売業者

2 国内向け市場外流通

(直販)

【パートナーイメージ】

- a. 農家
- b. 食品メーカー
- c. ディストリビューター
- d. 小売・外食

3 国内向け輸入

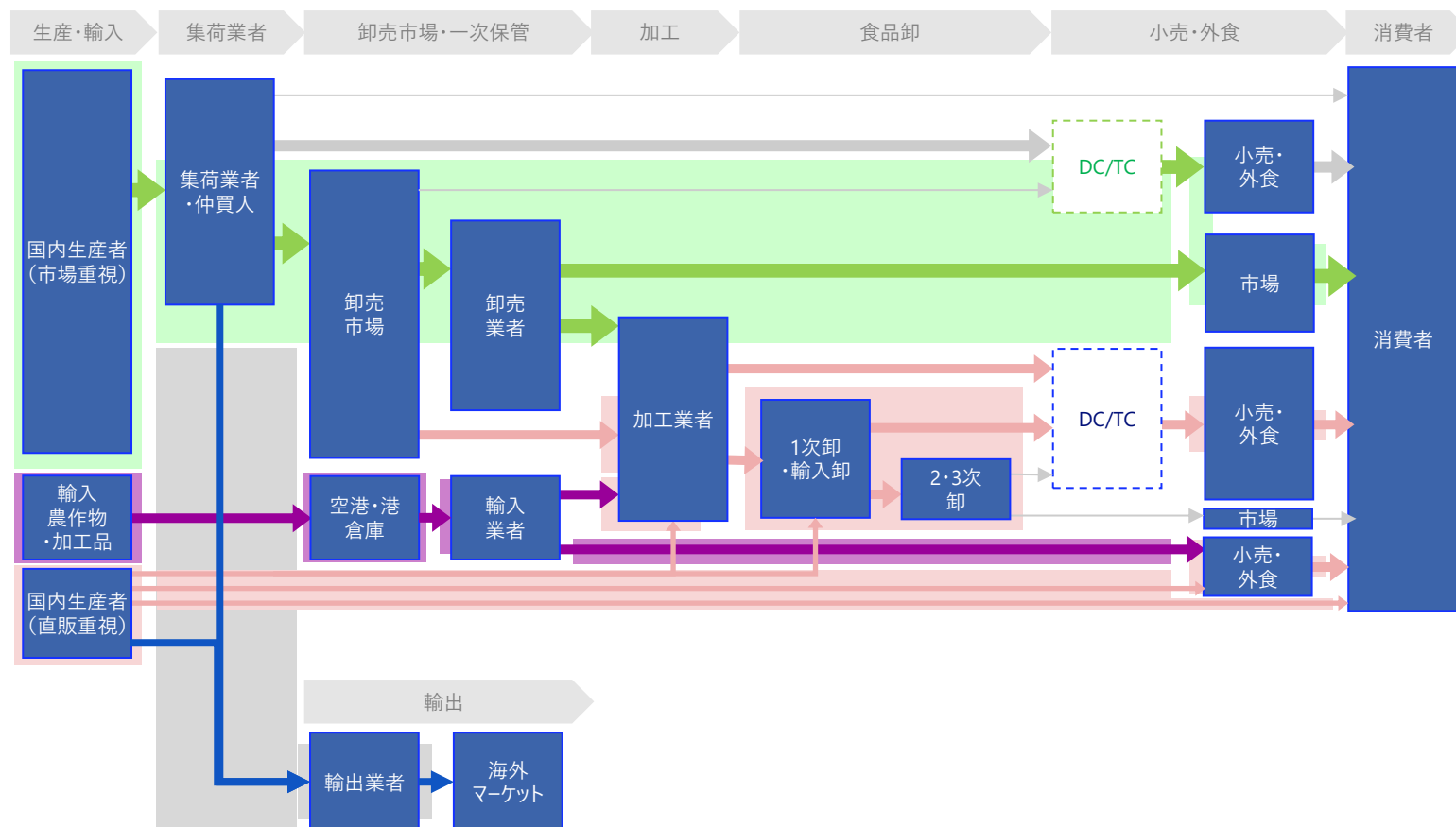
【パートナーイメージ】

- a. 海外食品メーカー
- b. インポーター
- c. 小売・外食

4 国外向け輸出

【パートナーイメージ】

- a. 農家
- b. 食品メーカー
- c. エクスポーター

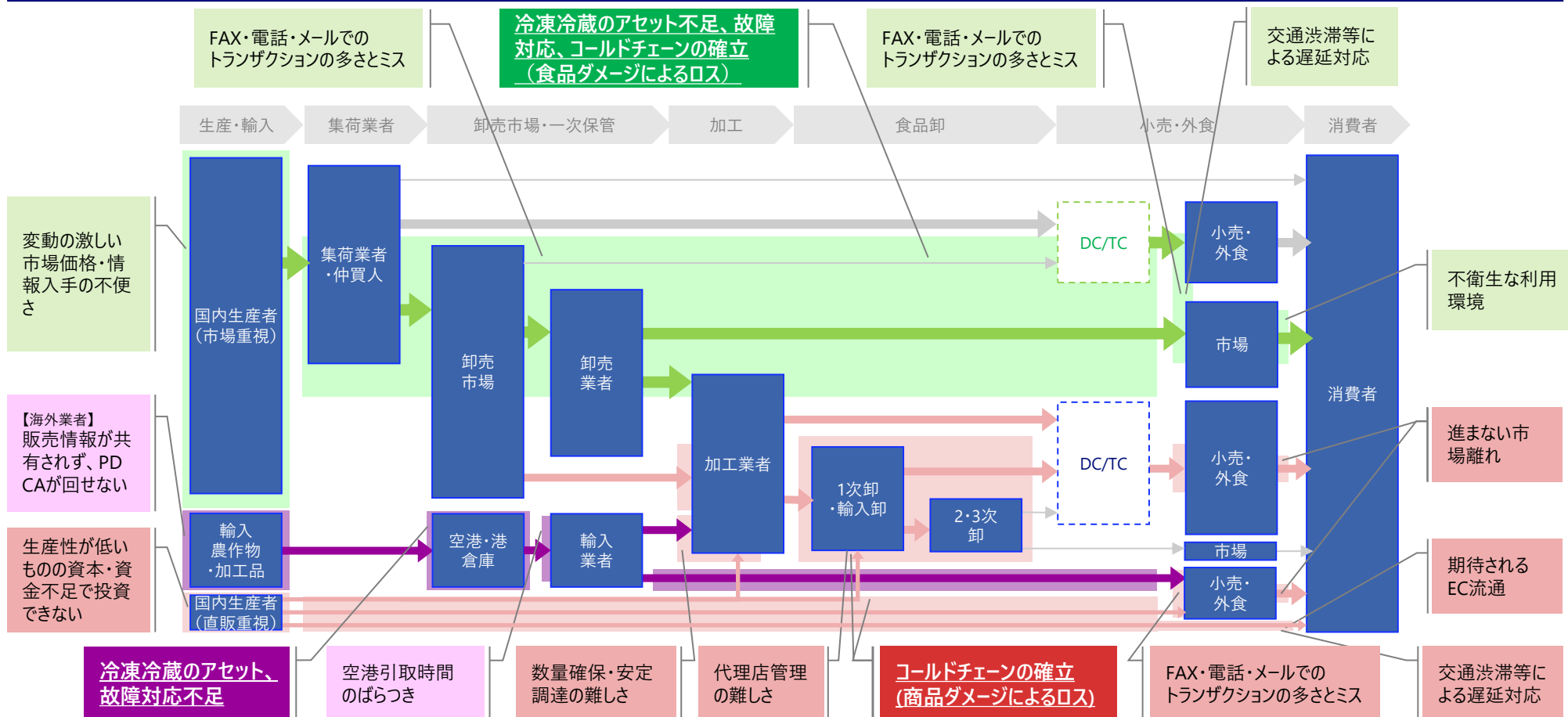


*DC：ディストリビューションセンター TC：トランスファーセンター

例えば、ASEANにおける食品流通では、冷凍冷蔵のアセット不足等、各所に課題が存在

- 例えば、ベトナムの食品流通は、市場を経由した多段階及び複数のチャンネルに別れているため、非常に複雑化している。その中で食品ロスも多く、生産物の20～25%は廃棄されているとされている。

食品流通構造と抱えている課題（ASEANにおける例）



荷主（食品関連企業）、物流事業者、政府のそれぞれの現状を踏まえ、「三方良し」を目指した海外でのコールドチェーン構築が求められている

荷主の現状

海外展開にあたり、
現地のコールドチェーンが不十分
であり、品質を維持した状態で
消費者に届けられない

物流事業者の現状

儲かるなら海外進出したいが、
需要が読めないため設備投資・
サービス提供に踏み切れない

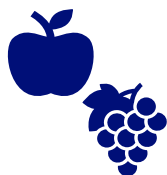
“三方良し”を
目指した海外
コールドチェーン
構築が必要

政府の現状

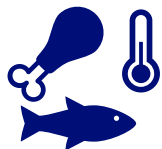
- 農林水産省（「輸出拡大等による「海外から稼ぐ力」の強化 に向けた施策の展開方向」）
 - ✓ 2030年に食品産業の海外展開による収益額を3兆円とする目標を掲げる
 - ✓ 施策の展開方向の一つとして、「海外現地のコールドチェーンの構築を推進」
- 国土交通省（「ASEAN地域におけるコールドチェーン物流と国土交通省の取組について」）
 - ✓ 「我が国のコールドチェーン物流サービスを規格化・普及することで、物流事業者の海外展開や農林水産物・食品等の輸出を促進」（「ASEAN地域におけるコールドチェーン物流と国土交通省の取組について」）
 - ✓ 今後の物流政策の方向性の一つとして、「厳しさを増す国際情勢や自然災害等に対応したサプライチェーンの高度化・強靱化」（総合物流施策大綱（2026年度～2030年度））

海外においてコールドチェーンを構築することは、日本産の農林水産物・食品の強みである品質面を押し出す上での生命線となり、競争優位の源泉となり得る

【日本の農林水産物・食品の特長】
世界が認める高品質・ブランド力



高い生産技術による
「味・見た目」



徹底した管理による
「鮮度・安全性」



和牛、高級フルーツ等の
「ブランド力」

一方で、海外展開時には
物流時の品質棄損が課題に



【コールドチェーンの役割】
海外で品質を維持する「生命線」

【実現する競争優位】
品質面を強みとして訴求可能に



高付加価値化
プレミアム価格で
販売可能



他国産との差別化
品質面で他国産品と
差別化可能

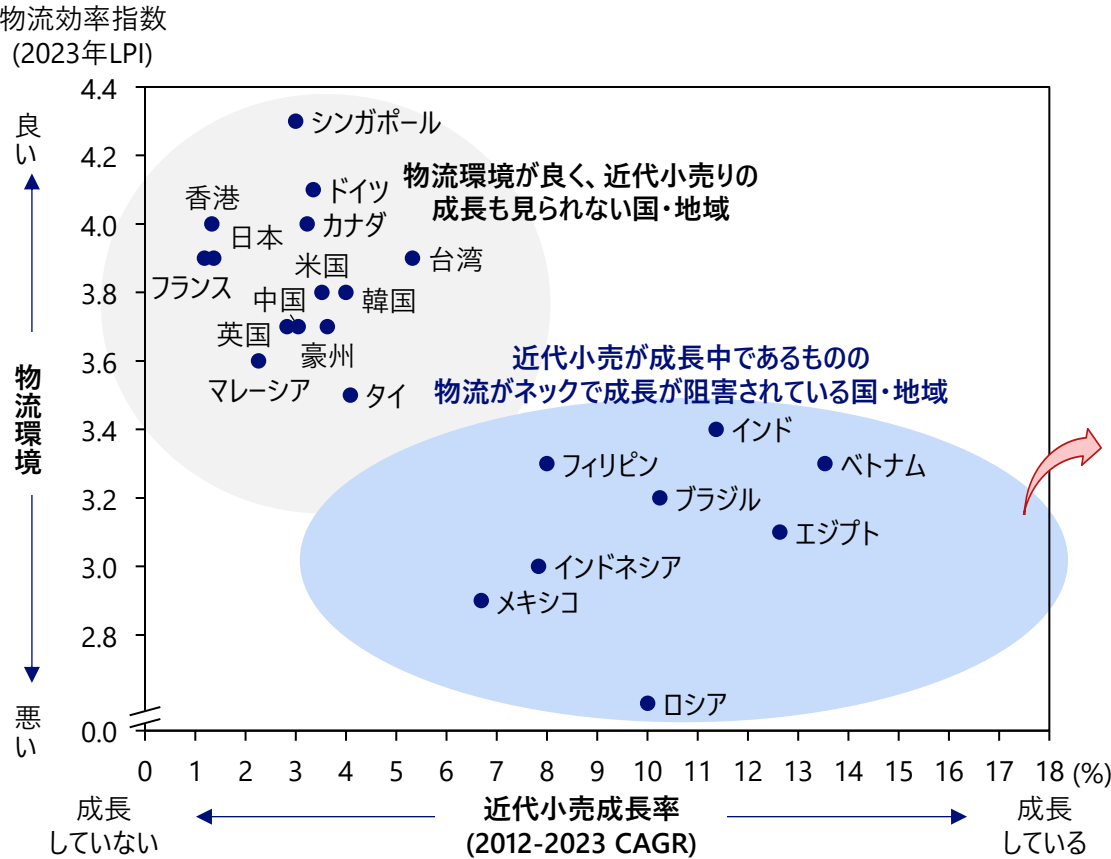


ブランド確立
日本産 = 高品質
としてブランド確立

「品質」を武器に、海外市場
で独自のポジションを確立

ASEANを中心に一部の国・地域では、コールドチェーンが近代小売の成長のボトルネックになっている可能性がある。リテールビジネスとのセットでの事業展開がコールドチェーンビジネスの一つの戦略となり得る

国・地域毎の物流効率指数、近代小売成長率



輸出事業者からみた現地物流の問題点 (n=197)

	物流ルートが整っていない	コールドチェーンが整っていない	時間がかかる	物流コストが高い
ベトナム	24	34	15	20
インド	9	10	9	7
インドネシア	15	17	15	12
フィリピン	12	11	6	7
ロシア	6	4	8	11
エジプト	4	5	4	3
ブラジル	4	1	10	6
メキシコ	5	2	7	4

* 数字は各課題について該当した事業者数、ハッチ部分は回答が最多の課題を示す。
出所) JETRO「農林水産物・食品関連企業への輸出に関するアンケート調査」

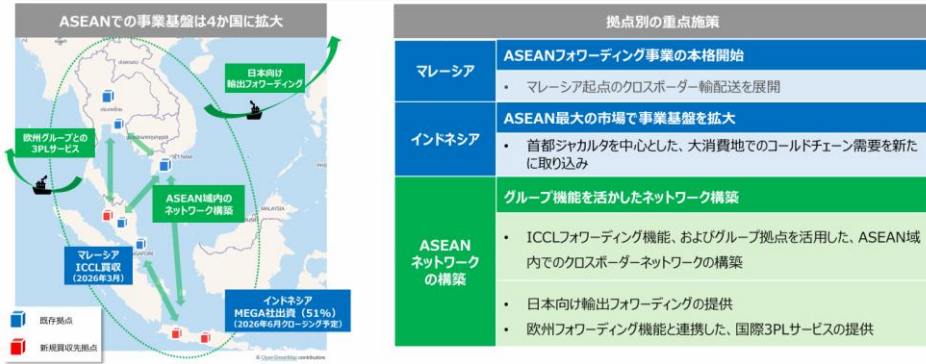
ニチレイロジグループ本社の中期経営計画

3. ②海外事業における事業拡大・新增設（ASEAN）



【インドネシア進出およびASEANにおけるグループ連携の発揮】

- インドネシアMEGA社買収による、ASEAN事業基盤の拡大
- マレーシアICCL社とASEANでのグループ機能を活用した、クロスボーダー輸送・3PLの構築



- ニチレイロジグループ本社では、インドネシアの物流会社買収による、ASEAN事業基盤の拡大を志向
- また、ASEANでのグループ機能を活用した、クロスボーダー輸送・3PLの構築を図る

横浜冷凍の中期経営計画

ASEANグローバル展開

<ASEAN地域への拡大>

経済発展を追い風にASEAN地域の売上を拡大します。

海外売上比率目標



	実施予定
太陽光発電	ベトナムヨコレイ 880kW設置予定(2025年)
自然冷媒	ベトナムヨコレイ 自然冷媒を使用
IT	クラウド型倉庫管理システムを使用(タイ、ベトナム)
自動化の推進	ベトナムヨコレイ 自動倉庫及び日本式カーゴナビゲーションシステムを導入

「環境にやさしい」
「システムの共通化」 「自動化の推進」

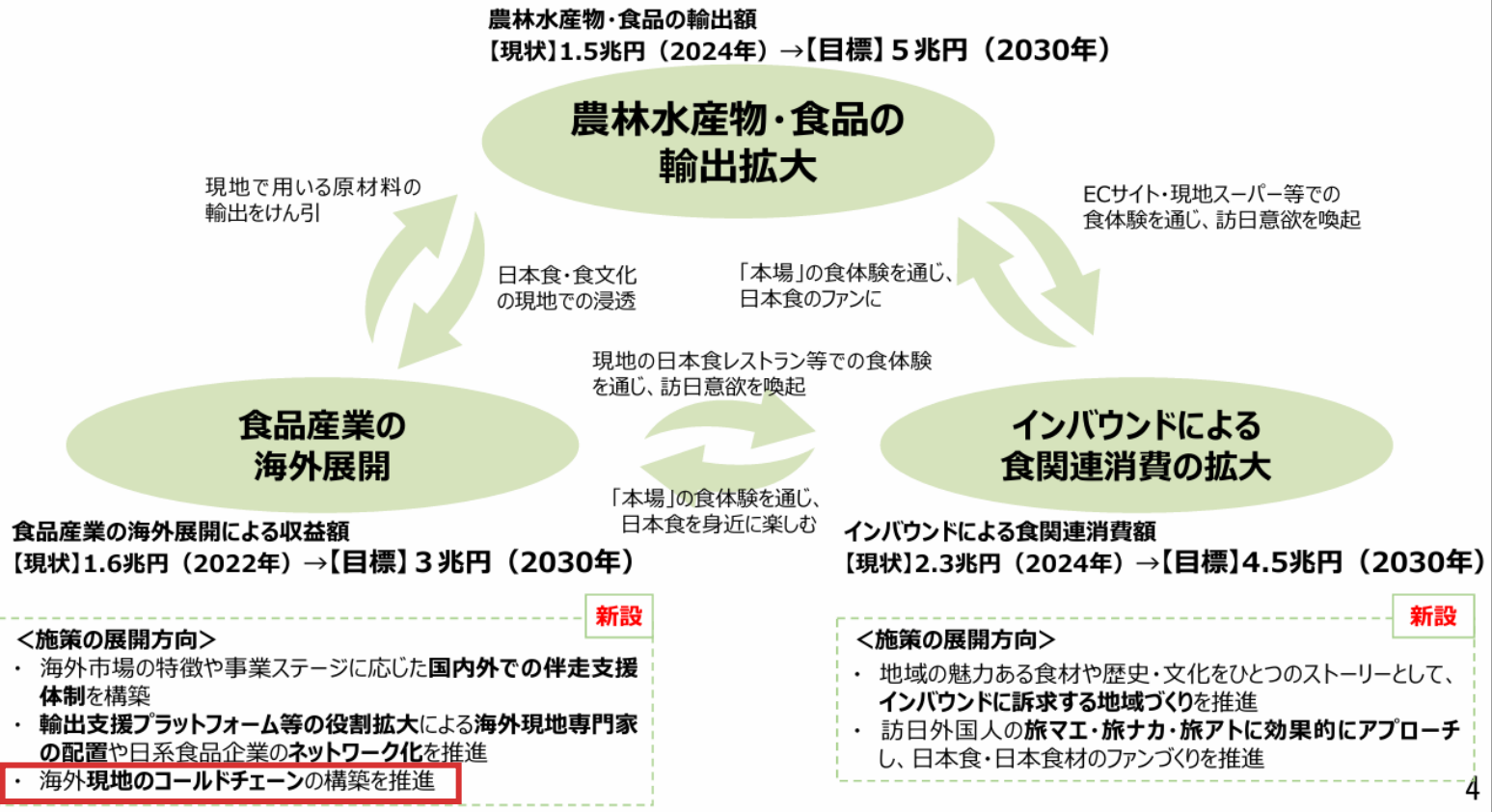
日本式コールドチェーンを展開することにより競争力強化

- 横浜冷凍においては、経済発展を追い風にASEAN地域の売上拡大を志向
- 日本式コールドチェーンを展開することにより競争力強化を図る

農林水産省の「農林水産物・食品の輸出拡大実行戦略」では、食品産業の海外展開において2030年に3兆円の収益額目標が掲げられており、海外でのコールドチェーン構築の推進が施策に挙げられている

3 農林水産物・食品の輸出拡大実行戦略の改訂①（全体像）

- **新たな食料・農業・農村基本計画**では、輸出拡大を加速するとともに、食品産業の海外展開、インバウンドによる食関連消費の拡大の連携による相乗効果を通じた「**海外から稼ぐ力**」の強化に向けた目標を設定
- これらの目標の達成に向けて施策の具体化を図るべく、**輸出拡大実行戦略を改訂**



国土交通省は、日本の高品質な物流サービスを規格化し、特にASEAN地域を中心に普及させることで、物流事業者の海外展開や農林水産物・食品等の促進を目指している

我が国のコールドチェーン物流サービスの規格化及び普及・促進 国土交通省

- 我が国のコールドチェーン物流サービスを規格化・普及することで適切なサービス品質を中心とした健全な市場を構築し、品質の可視化により我が国の物流事業者の競争力を高め、**物流事業者の海外展開や農林水産物・食品等の輸出を促進。**
- 我が国発の小口保冷配送サービス(BtoC)に関する国際規格(ISO23412)が2020年5月に発行された。
- 低温保管・輸送サービス（BtoB）に関する国際規格（ISO31512）が2024年12月に発行された
- これらの国際規格について、**ASEAN地域を中心として、各国政府との物流政策対話、現地物流・荷主企業等向けの講演やワークショップ等を通じて、普及・促進を図っていく。**

コールドチェーン物流サービスの規格化の意義

アジア諸国の低品質なコールドチェーン物流サービス

- 長時間日光に曝されている
- 過剰な量の保冷ボックスを運ぶ



- コールドチェーンが安定した社会インフラにならない
- 日系物流事業者の高品質なコールドチェーン物流の訴求力が弱くなる

日本型コールドチェーン物流サービスの規格化

規格の各国への普及



JSA規格



健全な市場の構築

コールドチェーン物流サービス規格

小口保冷配送サービス（BtoC）



ISO23412 ※2020年5月発行

【国際規格の普及啓発】※経済産業省と連携

ASEAN各国における普及に向けた取組を働きかけ

→インドネシア、タイ等で本規格をもとにした**国家規格が策定**

コールドチェーン物流サービス（BtoB）



ISO31512 ※2024年12月発行

【国際規格の普及啓発】

ASEAN各国における普及に向けた取組を働きかけ

→マレーシア、ベトナムの**現地法人が取得**。引き続き普及・促進を行う。

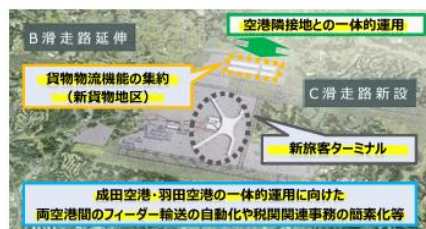
また、本年度に閣議決定された「総合物流施策大綱」の中で、「サプライチェーンの高度化・強靱化」が施策の一つに挙げられている

総合物流施策大綱(2026年度～2030年度)に基づき今後取り組むべき施策⑤

5 厳しさを増す国際情勢や自然災害等に対応したサプライチェーンの高度化・強靱化

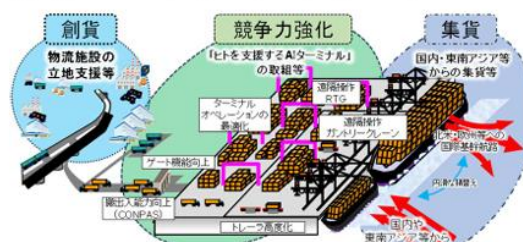
(1) サプライチェーンの高度化を通じた我が国の物流の国際競争力強化の実現

① 成田空港等の更なる機能強化等を通じた国際航空物流拠点の整備



成田空港の国際ハブ空港としての地位確立のための取組の推進

② 国際コンテナ戦略港湾政策の推進等



国際コンテナ戦略港湾の「集貨」「創貨」「競争力強化」の取組の推進

③ 安定的な国際海上輸送の確保に向けた海運の国際競争力強化



我が国の海事産業群の健全な循環

④ 我が国の物流産業の持続的成長に向けた海外市場の開拓や関係諸国との連携強化



官民ファンドを活用した海外展開支援



現地政府との政策対話



農林水産品・食品の輸出拠点型市場の整備

⑤ 農林水産品・食品の輸出拡大に向けた戦略的サプライチェーンの構築

⑥ 越境ECが拡大する中での通関業の役割の重要性と適正な業務運営の確保



越境ECによる貨物（通販貨物）の輸入通関の流れ

(2) 我が国の物流システムにおける経済安全保障やサイバーセキュリティ等の確保

① 経済安全保障やサイバーセキュリティに対応した物流産業の構築

② 不確実性が高まる国際情勢に対応した国際物流ネットワークの多元化・強靱化

③ シーレーンの安全確保



国際物流の新たなBCPルートの開拓

(3) 大規模自然災害等に対応した物流ネットワークの強靱化

① 災害等の有事における物流ネットワークの維持・確保

② 大規模自然災害に備えた緊急物資輸送の体制強化等



災害時のドローン活用



物資拠頭の運営状況等を把握



国による物資拠点への支援



物資事業者への派遣要員等

7

本日のNRI資料構成：

- 新事業創出部会開催の背景
- 本部会の検討スコープ
- コールドチェーンに係る課題・解決の方向性
- ディスカッション事項
- 今後の部会の進め方

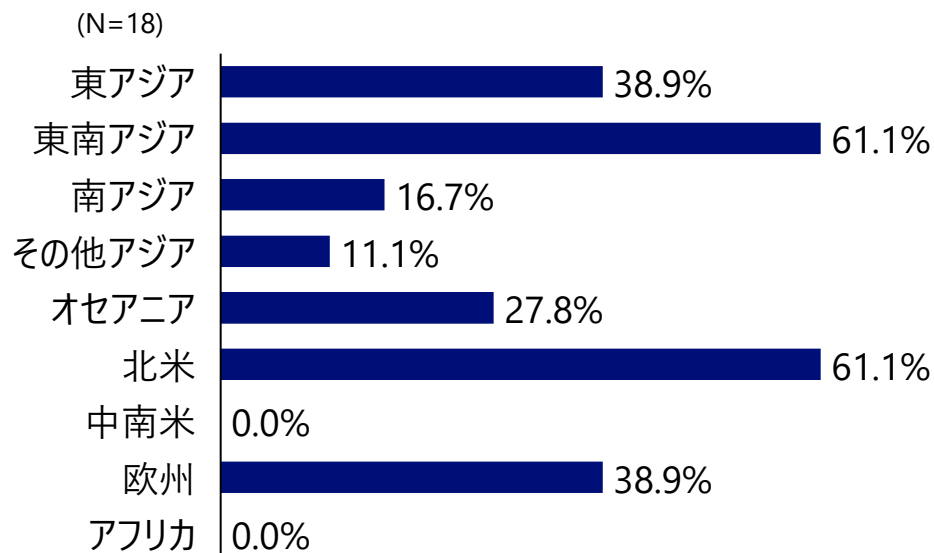
本部会の検討スコープ

今後の進出意向が高く、コールドチェーンに関する課題感の大きいアジア(特にASEAN)を主な想定エリアとして、本部会では課題解決に向けた方向性を検討

- 但し、課題や成功事例抽出においては、幅広い国を見ることは有用なため、本日の議論ではASEAN以外についてお話頂いても問題ございません

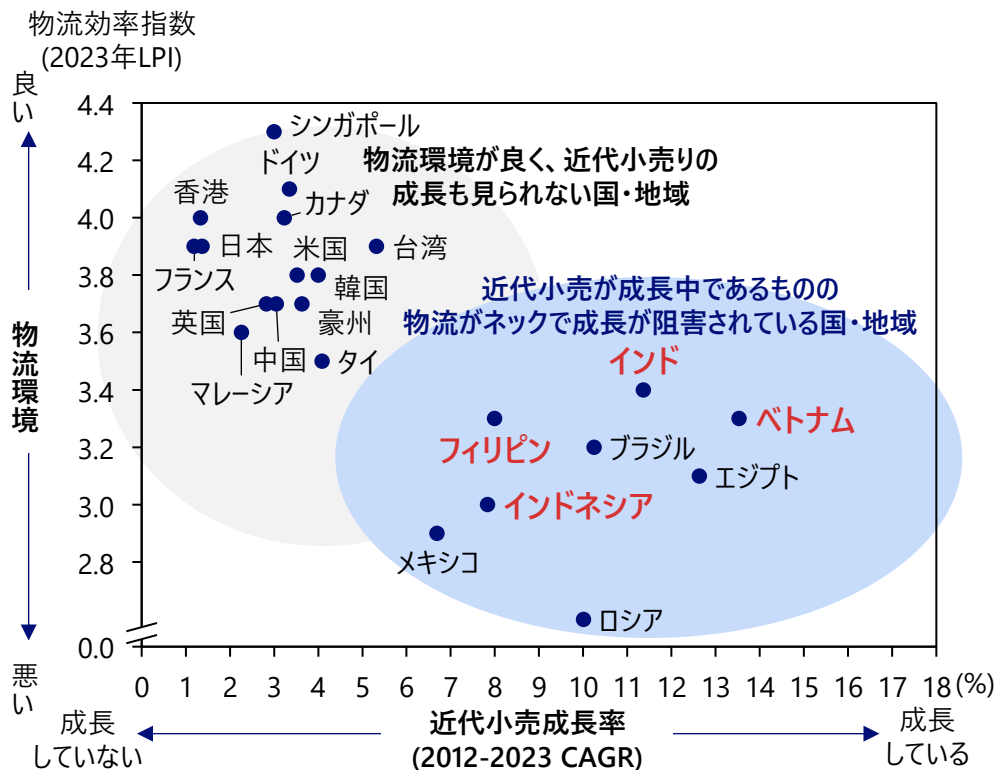
日系企業の輸出・海外展開に関する意向

輸出・海外展開で今後強化したいエリア



今後、ASEANや北米への進出強化への意向が強い

現地コールドチェーンに関する課題



ASEANやインド等で特に物流に関する課題感大きい

本部会の検討スコープ

海外展開先国内での流通を主な検討スコープとする。輸出に向けた日本国内での流通や日本⇒現地国までの流通は優先度劣後とする（但し切り離せない部分もあるため、抽出された意見は整理予定）

食品流通の4ルート（ASEANにおける例）

1 国内向け市場流通

【パートナーイメージ】

- a. 集荷業者・仲買人
- b. 市場・港運営事業者
- c. 卸売業者

2 国内向け市場外流通

【パートナーイメージ】

- a. 農家
- b. 食品メーカー
- c. ディストリビューター
- d. 小売・外食

3 国内向け輸入

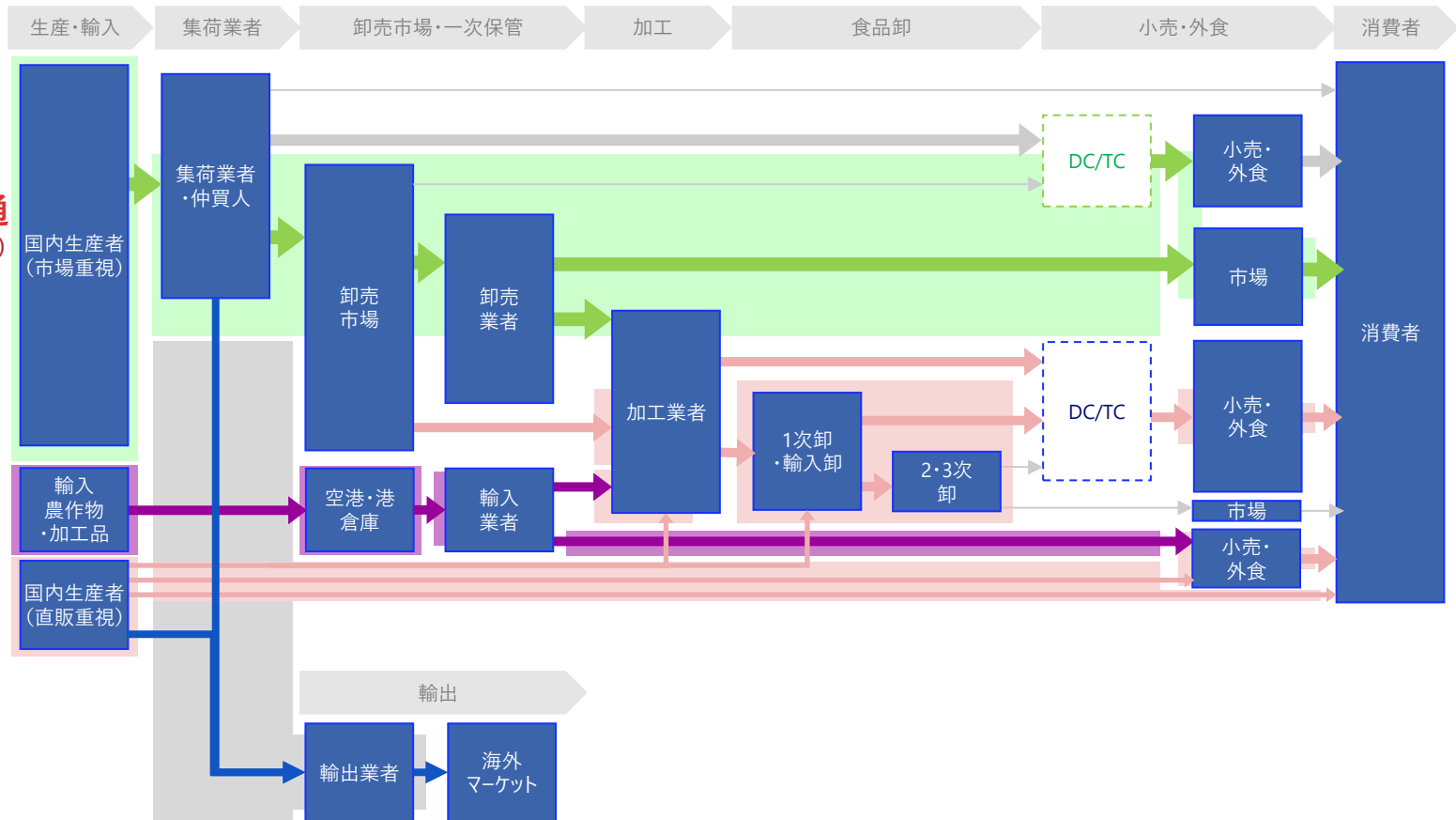
【パートナーイメージ】

- a. 海外食品メーカー
- b. インポーター
- c. 小売・外食

4 国外向け輸出

【パートナーイメージ】

- a. 農家
- b. 食品メーカー
- c. エクスポーター



日本国内～現地国の
流通は優先度劣後

現地国内での流通を主な検討スコープとする
（中でも①～③を主として想定）

本日のNRI資料構成：

- 新事業創出部会開催の背景
- 本部会の検討スコープ
- コールドチェーンに係る課題・解決の方向性
- ディスカッション事項
- 今後の部会の進め方

ASEANでは、コールドチェーンの未整備・質の低さにより、深刻な食料廃棄問題や食品衛生問題が引き起こされている状況

ASEANのコールドチェーンに係る課題（国土交通省資料より抜粋）

コールドチェーン物流の未整備・質の悪さ

- ✓ 現地事業者の冷凍冷蔵貨物の扱いに関する知識不足（外気温下での輸送、積み替え・卸しなど）
- ✓ 冷蔵冷凍倉庫への不安定な電力供給
- ✓ 劣悪な道路インフラ など

■ 2023年 Logistics Performance Index ランキング

ASEAN主要国	インフラ整備		品質と競争力	
	スコア	世界順位	スコア	世界順位
タイ	3.7	25	3.7	28
ベトナム	3.2	47	3.2	53
マレーシア	3.6	30	3.7	28
インドネシア	2.9	59	2.9	65
フィリピン	3.2	47	3.3	46
日本（参考）	4.2	5	4.1	9

出典：Full LPI Dataset（世界銀行）

結果

物流由来の社会問題

深刻な食料廃棄問題

南アジア・東南アジア

食料紛失・廃棄の約90%は、製造・流通段階で発生

製造－流通

消費段階



90%

10%

出典：Food and Agriculture Organization, United Nations

深刻な食品衛生問題

食品由来の疾病や死亡の頻発

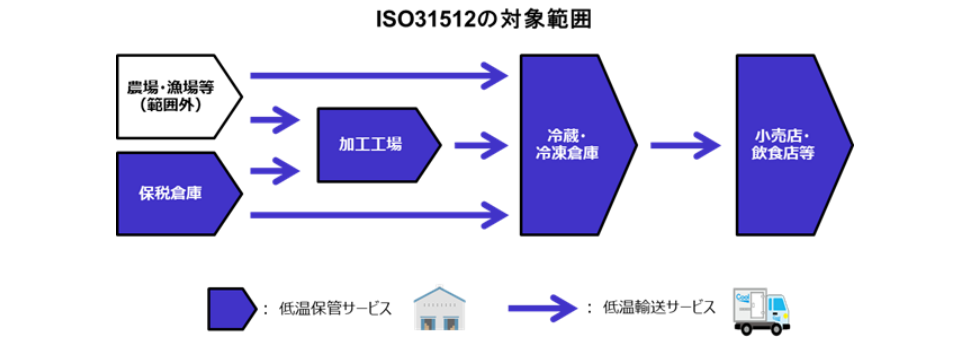
地域	食品由来の疾病	食品由来の死亡
東南アジア	1.5億件/年	17.5万人/年

出典：WHO

一方で、日本式のコールドチェーンは、産地から店頭まで温度を途切れさせない仕組みにより、ASEANが抱える課題の解決に寄与し得る

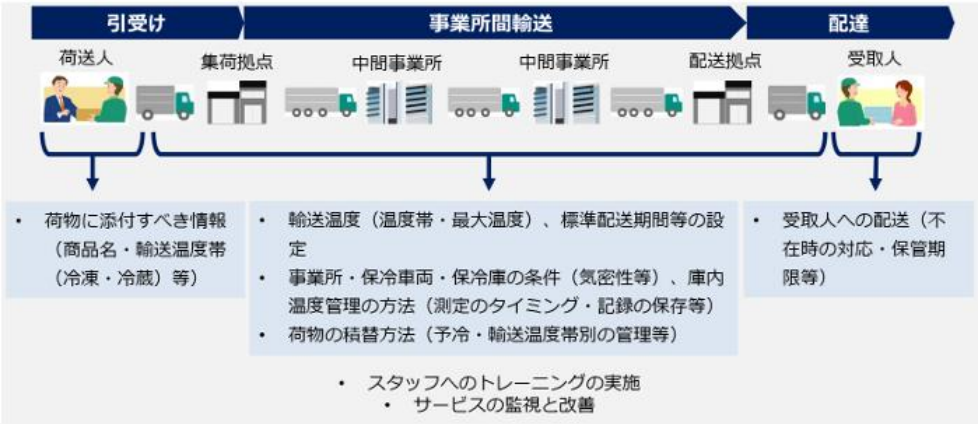
日本式のコールドチェーンの概要（国土交通省資料より抜粋）

企業間（BtoB）取引におけるコールドチェーン物流サービスに関する国際規格（ISO31512）の概要



ISO31512の要求内容			
	低温保管サービス (冷蔵・冷凍保管)	低温輸送サービス (冷蔵・冷凍輸送)	共通項目
項目	・条件の確認 ・入庫 ・低温保管 ・出庫	・条件の確認 ・積込み ・低温輸送 ・積替え、積卸し	・防犯、安全衛生 ・教育訓練 ・設備、機器の維持管理
要求事項	・温度管理された場所で、貨物の種類、数量、ダメージ、汚損を確認 ・庫内の温度上昇を防ぐ対策 ・一定温度帯での保管 ・保管温度の記録 ・ロケーション管理 等	・車両の予冷 ・温度管理された場所で、貨物の種類、数量、ダメージ、汚損、温度状態を確認 ・一定温度帯での輸送 ・貨物が外気にさらされることへの対策 等	・衛生管理(倉庫・輸送) ・防虫対策(倉庫) ・貨物の紛失や窃盗への対策(倉庫・輸送) ・ドライバーへの交通ルール等の指導(輸送) ・停電時に庫内温度を維持する対策(倉庫) ・作業マニュアルの作成と共有(倉庫・輸送) 等

小口保冷配送サービスに関する国際規格（ISO23412）の概要



コールドチェーンに係る主な課題はコストと品質面が主。対応方向性として、採算性をとれる仕組みづくりによりアセット整備をまずは行い、その上で物流オペレーションを確立していくことが求められる

	Cost（費用）	Quality（品質）	Delivery（納期）
荷主目線の 主な課題	✓ ニーズがまだまだ顕在化しておらず、ロットが小さくコスト高になる	✓ 品質維持ができておらず、商品ロスが発生する ✓ 求める水準のコールドチェーンが存在しない	✓ 消費者に届くまでに時間がかかる
物流事業者の 主な課題	✓ 荷量が集まらず、サービス料が高くなる ✓ 需要が読めないため、設備投資・サービス提供に踏み切れない ✓ 地方部はアセットが整備されていない	✓ 主要部はアセットはあるがオペレーションが悪く、品質劣化が発生 ✓ 品質の可視化ができない	✓ 特に、通関等で遅れが発生し、納期が見通せない場合がある
求められる 取り組み	STEP① アセット整備の促進 (採算性の取れる仕組み作り)	STEP② 物流オペレーションの確立	費用・品質面の 課題解決が優先

参考）荷主企業、物流事業者双方へのヒアリングでは、海外のコールドチェーンに係る課題として、品質と費用に関するものが多く挙げられた

荷主企業・物流事業者の課題（ヒアリング結果より一部抜粋）

区分	生の声	業種
Cost (費用)	物量が見込めないため、コールドチェーン構築は割高になる	物流
	大手でないと進出すると費用面で苦勞する状況	卸・物流
	日本産品を冷凍で輸出する話があったが、コールドチェーンの問題で断念。物量も見込めず、コストも見合わない	製パン
	体制としては整っているが、コストが高すぎるのが課題	食品デリバリー
	SKU数が増えると1つずつ登録作業が必要で、時間・費用のコストが乗る	
	コールドチェーンは発達していない。整っているのは首都圏で、地方までアセットが整備されていない	
	東南アジアは国内のコールドチェーンが繋がり切っておらず、運べない	菓子製造
	小口で送れず不便。毎回ドライアイスをつける必要があり、コストがかさむ	冷凍食品
	米国で冷凍品を輸配送するにあたり、ラストワンマイルの構築に課題がある	
	特殊な鮮度保持コンテナは大ロットにできず、輸送費が膨らむ	
Quality (品質)	現地でのコールドチェーン対応は杜撰になっている	製パン
	コールドで輸送しても倉庫前で常温放置され、意味がなくなることがある	輸送機器製造
	現地の運送事業者のコールドチェーンに関する知見が少ない	
	アイスは温度帯が通常より一段厳しく、扱ってくれる業者が限られるのが制約になった	菓子製造
	水産物の冷凍技術は確立しているが、自社を出た後にちゃんと管理されているかが怪しい	卸・物流
	鮮度保持コンテナは、正常に働いているかをトレースできるかが課題	物流
Delivery (納期)	国によって、通関を通るのに時間がかかる	卸・物流
	インドでは、通関の人的リソースが不足しており、時間がかかる	輸出支援
	空輸はコスト合わず海上輸送になるため、時間がかかる	菓子製造

アセット整備や物流オペレーションの確立に向けて、本年度は主に採算性を担保できる荷量およびスキームに関する検討や、オペレーション確立に向けた施策方向性の検討等を実施

		STEP①	STEP②
実現に向けて 達成すべき事項		アセット整備の促進 (採算性のとれる仕組み作り)	物流オペレーションの確立
主な 検証 論点	荷主	● 投資回収可能な事業計画（アセット整備計画）の策定・推進 ● 資金調達の実現	● 海外でのコールドチェーン構築に関するサービス品質基準の普及 ● 現地社員への理解促進に向けたスキーム・制度等の整備・運用
	物流事業者	● どのように荷量を確保するか ● どの程度コールドチェーンにコスト負担できるか	● 物流の効率化に向けてどのような取り組み（荷姿やパレット標準化等）を推進すべきか
		● 採算性を担保できる荷量はどの程度か ● 地域と品目（青果物、水産物、菓子製造等）でどう課題が異なるか	● どのように基準・ルールを普及させるか ● どのような制度・教育体制等が必要か
今年度部会での 検討事項（案）		● 採算性確保に向けて必要な荷量・投資規模の検証 ● 荷量を確保し得るスキームの検討	● 必要となる基準・ルールの普及に向けた取り組み検討(国交省事業との連携想定) ● 現地での理解促進・オペレーション体制構築・推進に向けた施策検討

主要検討事項

他連携や事例等を踏まえた施策を検討

今後の具体アクションへと繋げるべく、本年度抽出された課題や検討結果を踏まえ、
打ち手の導出・官民の役割について検討予定

STEP①

アセット整備の促進 (採算性のとれる仕組み作り)

今年度部会での
検討事項（案）

- 採算性確保に向けて必要な荷量・投資規模の検証
- 荷量を確保し得るスキームの検討

取り得る打ち手
(現状仮説)

- 共同物流スキームの構築（品目やサプライチェーンの川上～川下を束ねる等）
- 実証事業等による新規エリアにおける投資の実現性検証
- 既存施策（補助金等）活用による投資促進
- 現地企業連携・買収

※課題の大きいエリア(必要に応じて主要品目)に関して打ち手を整理の上、官民の役割を整理予定

主要検討事項

STEP②

物流オペレーションの確立

- 必要となる基準・ルールの普及に向けた取り組み検討(国交省事業との連携想定)
- 現地での理解促進・オペレーション体制構築・推進に向けた施策検討

- 既存施策との連携による基準・ルール普及に関する取組推進（国交省ISOに関する取組等）
- 荷主・物流事業者が一体となったコンソーシアムの組成、オペレーション普及活動の推進
- オペレーションマニュアルの整備
- オペレーション確立に向けた荷主側の要件整理（標準仕様の検討等）

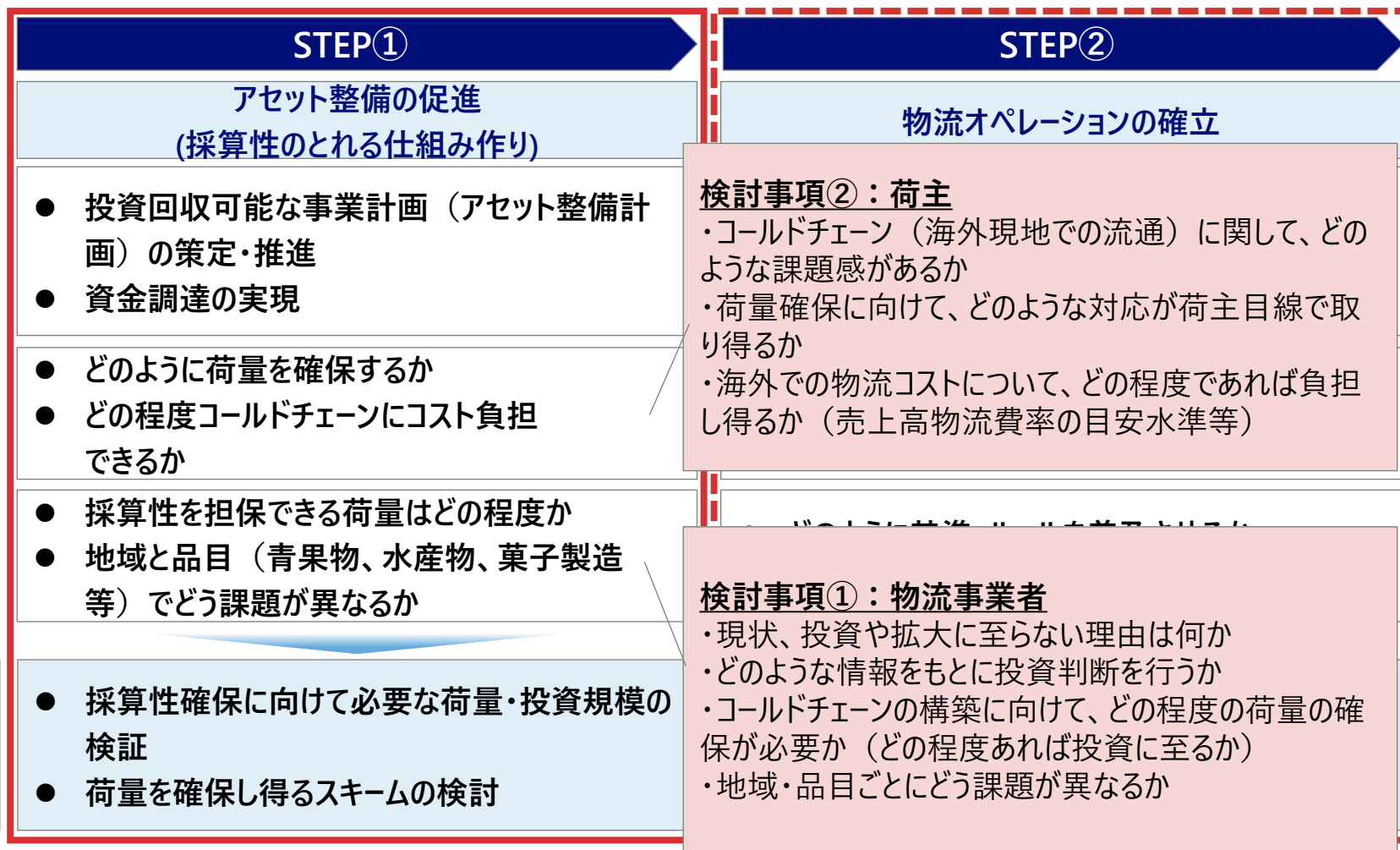
※課題の大きいエリア(必要に応じて主要品目)に関して打ち手を整理の上、官民の役割を整理予定

他連携や事例等を踏まえた施策を検討

本日のNRI資料構成：

- 新事業創出部会開催の背景
- 本部会の検討スコープ
- コールドチェーンに係る課題・解決の方向性
- **ディスカッション事項**
- 今後の部会の進め方

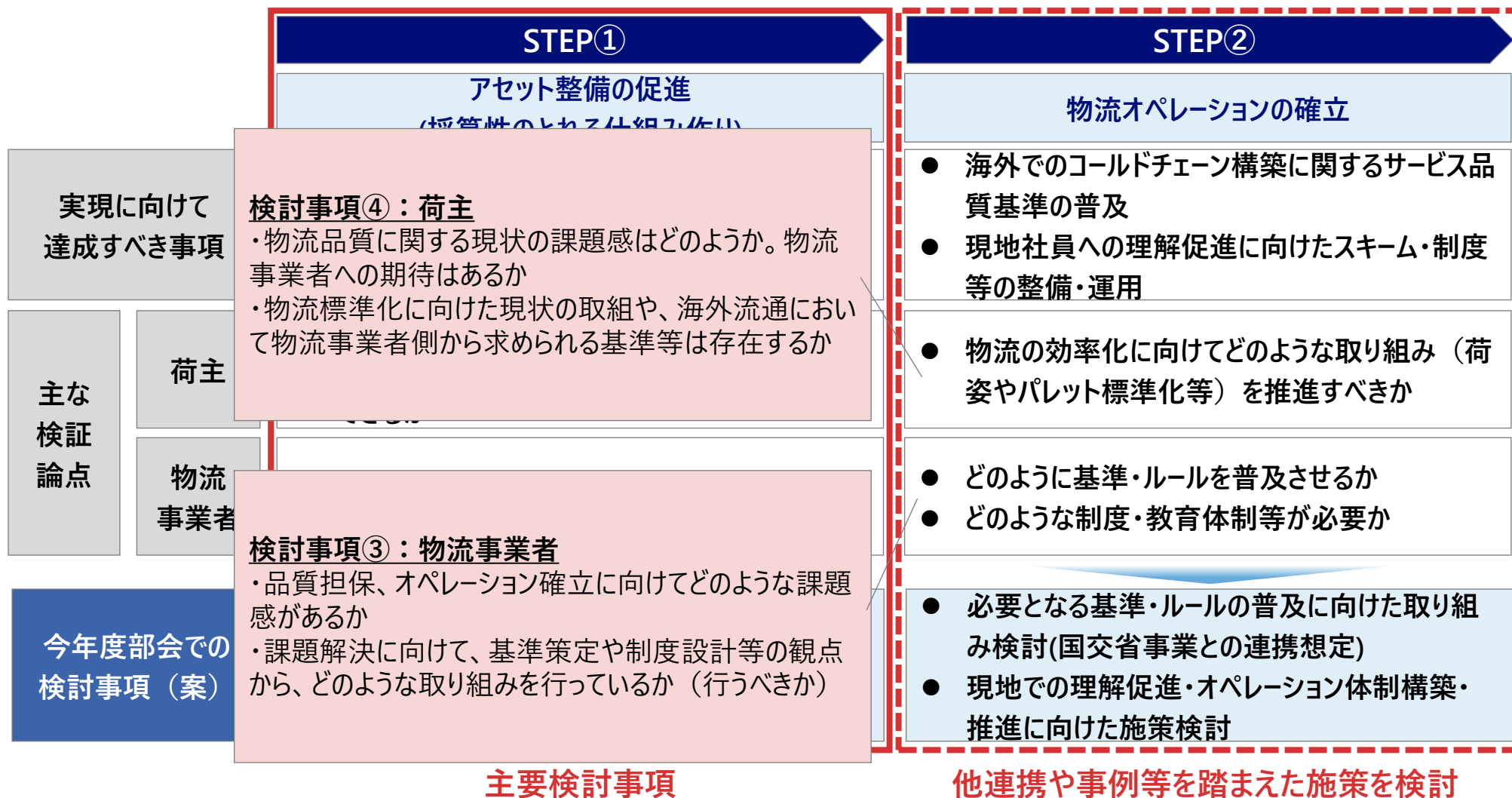
主に以下観点から課題解決のための方向性についてディスカッションを行いたい（1/2）



主要検討事項

他連携や事例等を踏まえた施策を検討

主に以下観点から課題解決のための方向性についてディスカッションを行いたい（2/2）



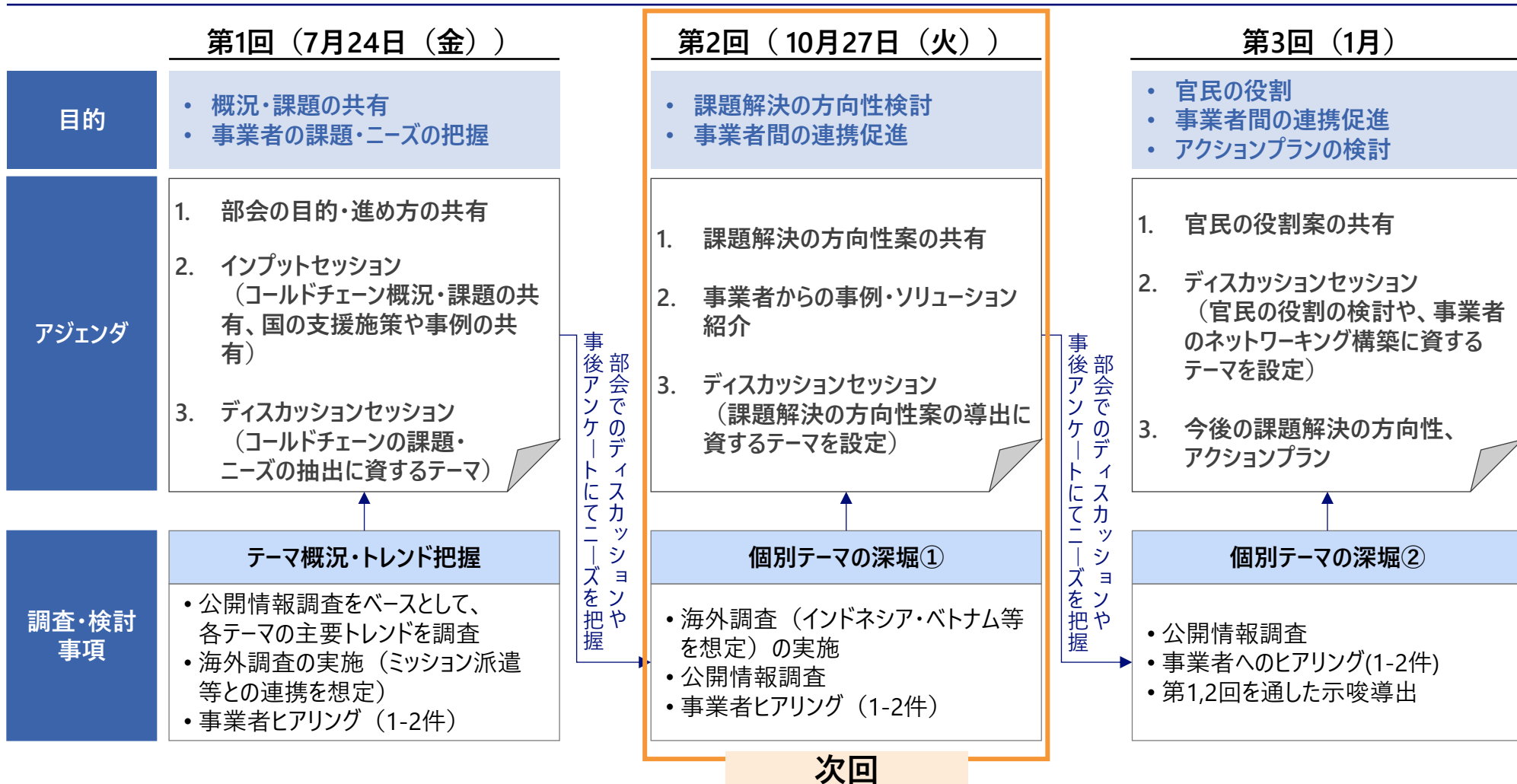
本日のNRI資料構成：

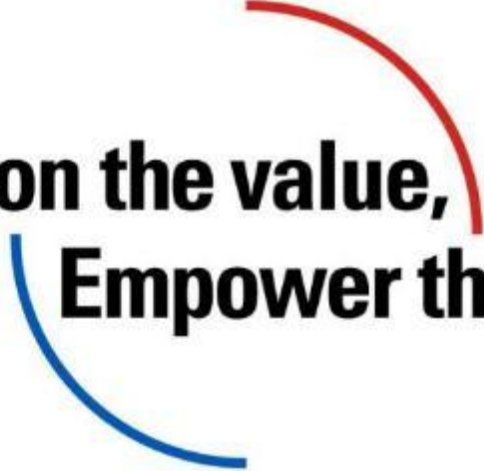
- 新事業創出部会開催の背景
- 本部会の検討スコープ
- コールドチェーンに係る課題・解決の方向性
- ディスカッション事項
- 今後の部会の進め方

今後の部会の進め方 | 本部会（全3回）の狙いとロードマップ

次回の新事業創出部会は、10月27日(火)14時～16時を予定しております。
本日出てきた課題を基に調査・報告を行う想定ですので、是非次回もご参加ください

新事業創出部会 全3回の想定アジェンダ





**Envision the value,
Empower the change**